

第十四回 「アーサー王伝説を追ってグラストンベリへ」

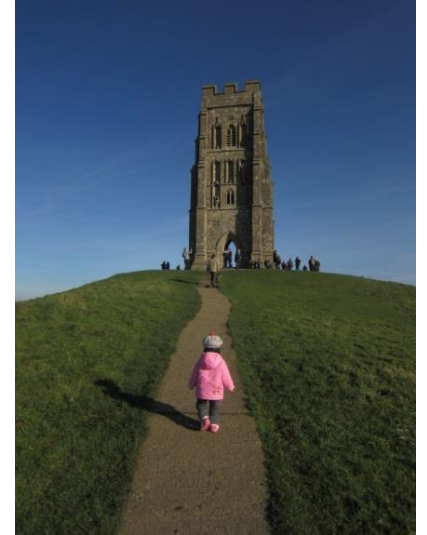
岡部 芳彦

「イギリス」と聞いてまず浮かぶものはなんでしょうか？僕は経済史家なので18世紀後半に起こった産業革命や世界の金融センターとしてのロンドンといったイメージがまず浮かびます。人によっては紅茶、ガーデニング、シャーロック・ホームズなどさまざまなものがあるでしょう。もしかすると日本と共通して王室があるという人もいるかもしれません。ただ『ハリーポッター』シリーズが世界的にヒットしたにもかかわらず、魔術や伝説に彩られた神秘主義の中心地であると言う人はそれほど多くはないと思います。

少し前に、英国中世史の大家である青山吉信先生の『グラストンベリ修道院－歴史と伝説－』を読んで、伝説や伝承が生まれる背景を歴史学的に解釈するという手法に、歴史学者として大いに学ばせていただきました。それ以来、ずっと興味があったのですが、グラストンベリについて詳しく書いてあるガイドブックはなく、また最寄りの駅はない「陸の孤島」のような場所にあるので行けずじまいでした。幸運にも、ブリストルからは車で1時間ほどですで行ってみることにしました。

グラストンベリといえば世界最大規模の野外ロックコンサートである「グラストンベリ・フェスティバル」のほうがもしかすると有名かもしれません。グラストンベリにまつわる伝説やミステリーは数えきれないほどありますが、その一つはアーサー王に関するものです。1191年、グラストンベリ修道院で、アーサー王とグィネヴィア王妃の遺骸が「突然」発見されます。その後、16世紀にヘンリー8世の宗教改革の中でグラストンベリ修道院も破壊され、その時にアーサー王の墓も失われたそうです。記憶違いでなければ、グィネヴィア王妃は円卓の騎士の一人ランスロットと許されざる関係となり、その結末は諸説あったはずなので二人とも同じ場所で発見されたというのは少し不自然な気がします。ただ、廃墟と化した修道院の広大な敷地を散策していると、急に娘が駆け出しました。小さな看板の前でピタッと立ち止まり、ジーと見つめています。何かな、と思ったらそこがアーサー王夫妻の遺骸が「発見」された場所だと記されていました。もしかすると引き寄せられる何かがあるのかもしれませんがね。

グラストンベリにはもう一つアーサー王に関するスピリチュアル・スポットがあります。それは「トー」と呼ばれる小高い丘です。グラストンベリ



グラストンベリー・トー(丘)
一番てっぺんの聖ミカエルの塔は異界へのゲートという噂もあるそうです…



アーサー王とグィネヴィア王妃の
遺骸が発見されたとされる場所



アーサー王と
グィネヴィア王妃のお墓の跡。

の周囲は平地なのですがこの丘だけがまるで島のように所在しています。そのため、ここが、満身創痍のアーサー王が運ばれたという地上の楽園アヴァロン島だったのではないかという伝承が生まれました。娘と二人で登ってみたのですが、一緒に登ったのは魔女のような格好をしたグループです。お聞きをしたところ、本当に「魔女」を生業にしているらしく、毎日のように宮崎駿監督の『魔女の宅急便』のDVDを見ている娘は「本物」を見て大はしゃぎでした。

歴史学者としては、実在すら確認できていないアーサー王の墓があること自体、不思議に思えますが、しかしこのグラストンベリが何世紀にもわたり、数多くの人々を引き付け魅了してきたのは間違いありません。この地を訪れた僕たちもまたグラストンベリの魅力（魔力？）に引き寄せられたのかもしれないね。

最後に少しニュースがあります。僕のブリストル大学での受け入れ教員で魔法・魔女・妖精学などの世界的権威ロナルド・ハットン教授の冠番組が歴史専門チャンネル Yesterday で6月12日から放映開始となります。その名も『ハットン教授の好奇心 (Professor Hutton's Curiosities)』です。日本でもそのうちケーブルテレビやヒストリーチャンネルあたりで見られるかもしれませんので楽しみにお待ちください。